

no. 4

SPORT TRAINER

スポーツトレーナー



PROFILE

横山 正吾さん (36歳)

よこやま・しょうご

テニスナショナルチームトレーナー

大阪社会体育専門学校
アスレティックトレーナーコース 卒業



2017年の全日本テニス選手権で準優勝の成績をおさめた、
島津製作所の西本恵選手のトレーナーを担当。(2017年当時)
メディシンボールという1kgある道具を使って、ボールを打つのに近い体の動きを取り入れたトレーニングを行っている

スポーツ選手が
試合で力を発揮できるよう
体づくりや
モチベーションアップを支える



**テニス専門のスポーツトレーナーとして
多くのプロ・アマ選手を支える**

私の仕事はスポーツ選手のフィジカルトレーニングを行うことです。選手の能力や、その時の状態に合わせてトレーニングプログラムを組み立て、体の動きを確認して、より力が発揮できるようアドバイスを行います。選手の遠征試合に同行する場合は、試合から逆算してプログラムを考えたり、その土地の気温や湿度など気候の違いに合わせて内容をアレンジしたりもします。**大事なのは、選手が持っているパフォーマンスを試合で発揮できるようコンディションを整えること。**そして、1年を通して行われている試合にけがなく臨み、技術の向上を目指せるように体の状態を整えておくことです。そのためには、技術指導を行うコーチやリハビリ担当のトレーナーなどとも協力しながら、その時々ベストコンディションを探っていきます。**トレーニングに関する知識があることは大前提で、その日の様子の変化を見極めるための洞察力や、必要に応じて対応を変える判断力や決断力も求められます。**

専門学校時代に、デビスカップ日本代表チームの練習を見学させてもらったことがきっかけで、テニス競技で仕事をするようになり、現在はテニス選手のトレーニング指導がメインとなっています。テニスならではの動き、例えば細かい切り返しやスイング動作に近いトレーニングを取り込むことで、トレーニングで体を作った後に、テニスの動作に移行しやすいよう工夫しています。



海外遠征の場合は、飛行機移動によって体の筋肉が固まってしまうことが多い。筋肉をほぐすトレーニングを増やすことで、いつもの体の動きができるようサポートをしている

**選手が高いモチベーションで練習に
臨めるよう、引っ張っていく力が必要**

スポーツトレーナーにはもう一つ大きな仕事があります。それは、「選手のモチベーションのコントロール」です。練習前のウォームアップを担当するのトレーナーの仕事ですから、体と一緒に心も起こし、選手がより高いモチベーションで練習に臨めるように引っ張っていく力も必要です。特に寒い時期や気候の違う海外では、ウォーミングアップはけがの予防にもつながります。

多くのトレーナーは企業や団体に所属して仕事をしますが、私はフリーランスとして働いています。いつも心がけているのは、選手からするとネガティブなものに捉えられがちなトレーニングというものを少しでも楽しいものにして、選手に必要な実感してもらうための方法を考えることです。これまでたくさんの選手を見てきましたが、トレーニングはやらされるよりも自主的に取り組める選手の方が、きちんと結果につながっています。ですから、選手自身がやる気になって試合でいい成績を出すことができたときは、自分のこと以上にうれしくなりますね。

スポーツトレーナーの仕事は、世界中どこでも求められる専門職であり、志望する人も多くいます。ライバルが多く、知識や技術力が高いからといって必ずしも活躍できるとは限らない厳しい世界です。**今の私があるのは、専門学校で同じ志を持つ仲間と切磋琢磨し、人間力を磨き経験があったからこそだと感じています。**

横山さんの学びと仕事の経験



今の仕事を選んだ理由

体を動かす楽しさを
多くの人に伝えられる
仕事をしたかった

高校までは地元・高知県で野球をしていました。ポジションはピッチャーです。ピッチャーというのはほかの野手に比べて、トレーニングや調整を個人の自由に任されることが多いため、中学生くらいから自分なりのトレーニング法を考えたり、体の使い方の本を読んで研究したりするのが習慣になっていました。部活を引退し、将来の進路を考えたときに真っ先に浮かんだのがトレーナーの仕事でした。大好きなスポーツに関わりながら、体を動かす楽しさをたくさんの人たちに伝えていきたいと思ったのが一番の理由です。



進路選びのポイント

体育教師をしている
親戚の勧めで
本気で学べる学校を検討

正直に言うと、大学に通うだけの金銭的な余裕がなく、それならばと考えたのが専門学校への進学でした。大阪の高校で体育教師をしている親戚がいたので相談したところ、「本気で学びたいなら大阪社会体育専門学校がいいのでは」とアドバイスをもらいました。聞けば、いい意味でとても厳しく、真剣に資格取得を目指す学生が集まる学校ということで、私に合いそうだなと感じました。高いレベルの環境で教養から実習までしっかり学べる点にも興味を持ち、決断しました。また、奨学金を借りられたおかげで、大きな負担もなく、大阪で一人暮らしをしながら勉学に励むことができました。

HE CONTINUES
CHASING A DREAM.



専門学校が教えてくれたこと

実習先で基礎学習の大切さを痛感。「学ぶ目的」が明確になった

1年次は一般教養や基礎を学ぶことが中心だったので、別の専攻の人たちと一緒にエアロビクスや水泳などの授業を受けることも。また、解剖学や生理学といった難しい授業も多く、正直、最初は戸惑いました。2年次からはコースごとに分かれてきましたが、一番の学びになったのが実習です。卒業生が働く大学のアメフトチームに入って選手のリハビリなどのトレーニングをお手伝いするのですが、トレーニングの知識だけでなく、身体の仕組みと機能について知らないと本当の意味で役に立てないことを痛感しました。その時に学校で1年次に学んだことがいかに大切なことだったかを実感し、社会で通用するトレーナーになるためには目的意識を持って学ばないといけないんだと思いました。ちなみに、その時に出会ったアメフトチームのトレーナーが、私の仕事上の恩師なんです。

PRACTICAL TRAINING!





私の選択

24歳

「デビスカップ日本代表チーム」にトレーナーとして採用される。高校、大学のテニス部とトレーナー契約。

23歳

在学中より独自に勉強していたNSCA(全米ストレングス&コンディショニング)協会認定パーソナルトレーナーの資格を取得する。同時期に、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格も取得したことで、リハビリのトレーナーとしても仕事の幅を広げる。

入学

18歳

大阪社会体育専門学校に入学。

19歳

2年間のカリキュラムを終えた後、3年目の専攻科を希望して進学。

卒業

独立

25歳

関西を中心に活躍するトップのジュニア選手のトレーニングを担当することに。この時期からテニス専門のトレーナーとしてのキャリアがスタート。

22歳

卒業後はフリーランスのインストラクターに。母校の非常勤講師や、勉強のためにアメリカンフットボール、高校野球、サッカーなどのチームを回ってトレーニング指導の経験を積む。

20歳

専攻科在学中に、学校の紹介でデビスカップ(男子テニスの国別対抗戦)の合宿所に見学に行く。そこでテニスと初めて出会い、以後しばらくはボランティアスタッフとしてトレーニングのサポートを行うように。

現在

テニスラボ所属選手の遠征に帯同しながら、実業団や大学、高校のテニス部と契約を結んでトレーニングを担当。1年のうちの約4か月間は海外に滞在し、選手をサポートしている。

34歳

リオデジャネイロ五輪にも出場したプロテニスプレーヤー・日比野菜緒選手の海外遠征に備えたトレーニングを担当。海外ツアーにも帯同し、世界のトッププレーヤーたちのトレーニングを肌で知る。

1



2



1.2017年のウィンブルドン選手権でも現地でトレーニングを担当。海外の一流選手のトレーニングを間近で見る貴重な機会を得る

2.担当するプロテニスプレーヤーの日比野菜緒選手の海外遠征に同行。2018年の全豪オープンテニス出場にも同行した



no.1



PROFILE

社会福祉法人 カメリア会
特別養護老人ホームカメリア

たがわ・みなこ

田川 美奈子さん (24歳)

CARE WORKER

介護職 / 介護福祉士

田川さんの専門学校時代

出身校：日本福祉教育専門学校／介護福祉学科
学んだこと：介護福祉学科のカリキュラム(社会保障制度、高齢者に対する支援と介護保険制度、介護の基本、コミュニケーション技術など)
好きだった科目、得意だった科目：座学全般、週1回の介護実習

田川さんの社会人生活

今の仕事：介護職(介護福祉士資格あり)
仕事の概要：特別養護老人ホーム*1のショートステイ*2サービス担当
仕事の経験年数：4年
働き方：早番、遅番、夜勤の3交替制。休日休暇はシフト制で随時取得
日々の息抜き：専門学校時代の仲間と一緒に旅行すること



私の選択

16歳

高校入学

東京都立忍岡高等学校・生活科学科。「給食の時間が苦手な子どもが、喜んでくれる給食をつくりたい」と思い、栄養士の資格取得と調理師になることを目標に入学。

20歳

専門学校卒業・就職

2年間の勉強を終えて、介護福祉士の資格(国家資格)を取得し、卒業。社会福祉法人 カメリア会 特別養護老人ホームカメリアに、介護職として入職。

18歳

高校卒業・専門学校入学

3年間、調理の勉強(栄養素の計算や献立づくりなど)をしたものの、「細かく計算されたお料理づくりは自分に合わない」と感じ、調理師になることをやめて就職を検討する。看護師の姉の影響で「資格を取得しておく方が将来自分のためになる!!」と考えて、日本福祉教育専門学校・介護福祉学科に入学。

現在

今の仕事

ショートステイを利用するご利用者(お客さま)のケアを行う。

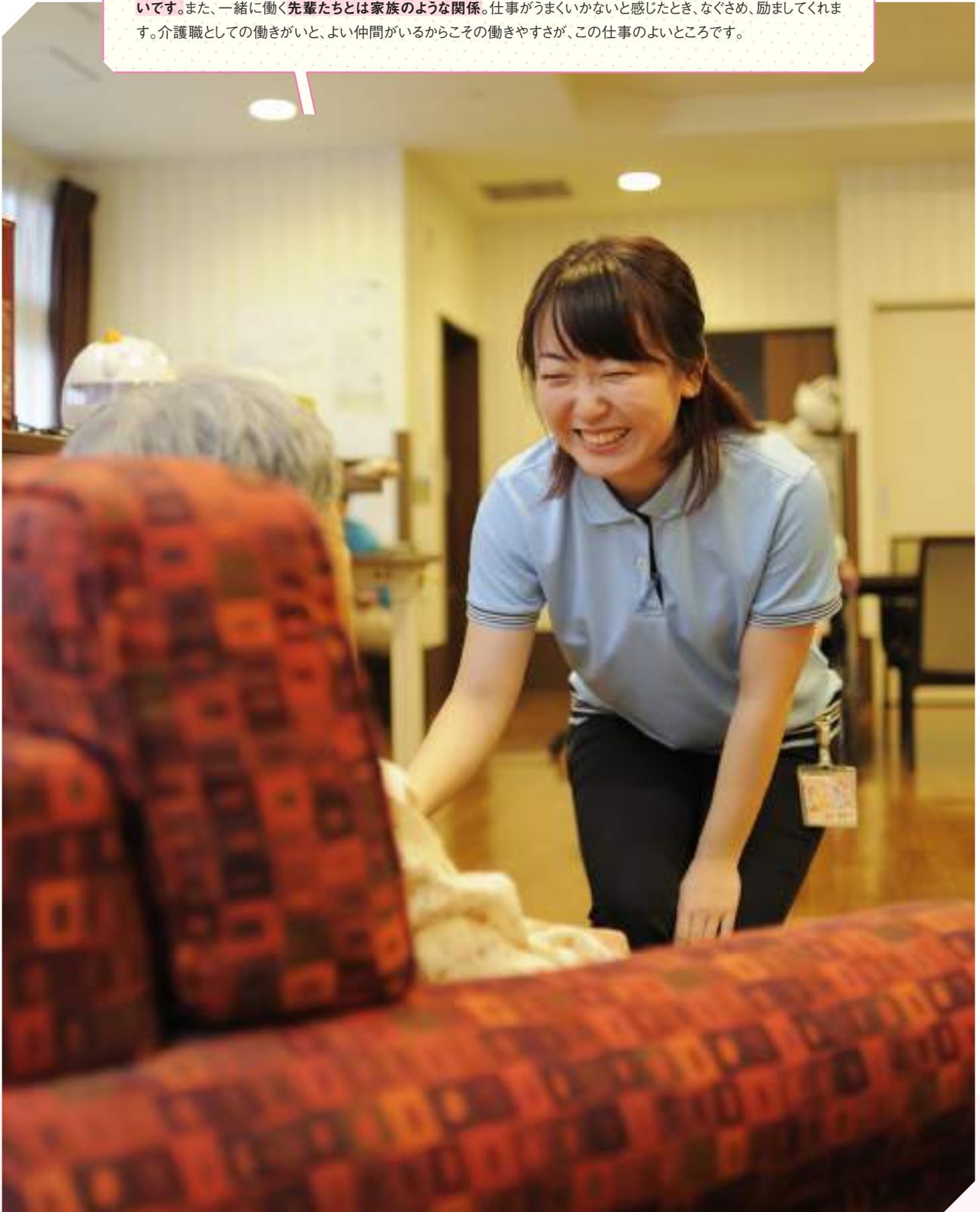
*1 特別養護老人ホーム：一人で生活することが難しいお年寄りの方が入居して、日常生活を送る施設。

*2 ショートステイ：30日間までの短期間、施設で食事や入浴などの支援を受けるサービス。

仕事のおもしろさ

**介護・支援の方法は十人十色。
利用者の数だけ、覚えることはたくさん!**

私は特別養護老人ホームで、ショートステイという短期的に入所いただくご利用者の介護・支援サービスを担当しています。ご利用者は認知症などで介護を必要とする高齢の方々です。また短期で人が入れ替わるので、一人ひとりの状況を把握し、それぞれの方に適したケアを行うのが大変。ですがその分、介護職としての経験値が上がるので、やりがいがあります。認知症の方が再入所にいらした際、私の名前を覚えていてくれたりすると、やっぱりうれしいです。また、一緒に働く先輩たちとは家族のような関係。仕事がうまくいかないと感じたとき、なぐさめ、励ましてくれます。介護職としての働きがいと、よい仲間がいるからこそその働きやすさが、この仕事のよいところです。



Q AND A



Q.なぜ介護福祉学科を選択？

A. 介護は将来困らない分野だと思うから。少子高齢化の時代、介護職は要になる職業だし、やりがいのある介護の仕事をずっと続けていきたいです。資格がすべてだとは思いませんが——国家資格を取るということは、そのために基礎をきちんと学ぼうとするし、実習を繰り返し受けるので仕事になじみやすく、お給料面でもちょっと得できる(笑)と思います。

Q.介護技術の差は、学生時代にできてしまう？

A. 介護技術は、学生時代に完璧にできなくても働き始めてから経験を積んでいけばよいと思います。ショートステイはご利用者の入れ替わりが多いので、新規の方が来たときは「以前ご利用になられたあの方と麻痺しているところが似ているから、同じようにやってみようか」など臨機応変に考えます。こういった“応用力”を支える基礎を学生時代に鍛えておくと、その後で差が出てくると思います。

Q.介護の実習って何をするの？

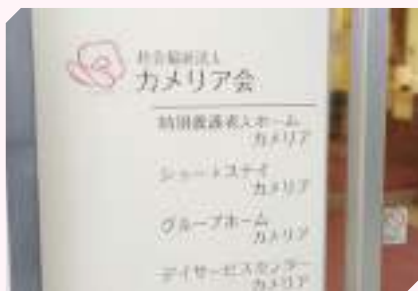
A. デイサービスセンターや障害者福祉施設、特別養護老人ホームに行き、職員の方に付いて、ご利用者のケアをお手伝いしました。私は移乗介助(ベッドから車いすなどへの移動)が苦手で、実習のときにひたすらその練習をさせていただきました。ご利用者さまには申し訳なかったのですが、そこで鍛えていただけたのかもしれないです。

Q.「専門学校時代にもっとやっておけばよかった」と思うことは？

A. 私は緊張しがちで、実習先では、いつもカチンコチン。もっと吸収できるものは吸収するぞ!くらいの意気込みで挑む勇気があればよかったなど。学生時代は余裕がなく、音楽療法や手話コースなど、ほかの授業を受けなかったんです。介護福祉士だけでなく、よりご利用者さまのお役に立てるよう介護職につながるほかの勉強もすればよかったなど、仕事を始めてから感じています。



HAND MADE!



HER WORKPLACE!

進路選択をする高校生の皆さんへ

実務につながる学びと資格取得なら専門学校が近道!

専門学校のよい点は、設備が充実していることと、実習先とのつながりが強いこと。ベッドの台数が多いので、介護職の大事な仕事である移乗介助(ベッドから車いす、車いすから浴槽などへ乗り移るお手伝い)の練習が十分できるし、集中して勉強できるカリキュラムだと思います。また実習先とのつながりが強く、卒業生がたくさん働いているので、実習中も“学校の先輩”にいろいろ教えてもらうことができます。実務に直結する学びをしたい、手に職・資格を身に付けたいという方は、専門学校が合うのではと思います。



Q. 仕事で悩んだりへこんだりすることは?

A. 認知症の方にうまく“声かけ”ができなくて、その方がパニックに陥ったとき、**自分が情けなくなり、泣いてしまったこともあります。**でも職場のリーダーに話を聞いてもらい、立ち直ることができました。

Q. 仕事は教えてもらえる?

A. 就職先にもよりますが、**私の場合は入社して約半年間、先輩がついて指導してくれました。**その後は一人前として仕事を任されています。特にショートステイは短期間でご利用者が入れ替わり、個々にケアの方法も異なるので、覚えることがたくさんありました。また、初めて夜勤を任せてもらったときは、何か起きたら自分一人で対処しなくてはならないというプレッシャーと責任感の重さで、心臓が苦しくなるほどでした。

Q. これからの目標は?

A. 一番は、**ショートステイのご利用者が「またここに来たい!」と楽しみに思ってください**ことです。それからご利用者と一緒に働くユニットの**仲間にも頼られる存在**になりたいと思います。今は一緒に働いている仲間が大好きだし、働きやすいので、職場を替わりたいと思いませんが、いつかデイサービスやグループホームの仕事もして、介護職としての経験を増やしていきたいですね。

MEETING...

TEAMWORK!





no.2



PROFILE

PEEK-A-BOO 青山

いとう・さゆき

伊藤 雨潔さん (31歳)

HAIRDRESSER / TOP STYLIST

美容師 / トップスタイリスト

伊藤さんの専門学校時代

出身校：ハリウッド美容専門学校 / 美容科

学んだこと：ヘア、メイク、ネイル、エステ、和装・着付などの美容技術と、美容技術理論、関係法規、物理化学などの美容理論

好きだった科目、得意だった科目：国家試験課題にあたるパーマ・ワインディング

伊藤さんの社会人生活

今の仕事：美容師 / トップスタイリスト

仕事の概要：都内で10店舗を展開するヘアサロン「PEEK-A-BOO」の、青山店(本店)所属のスタイリスト。ヘアカットがメインだが、お客さまから要望があればメイクも行う

仕事の経験年数：10年

仕事の楽しみ：お客さまとして、中学高校の同級生がたくさん来店してくれる。何人か重なり、店内で“プチ同窓会”になることも!



私の選択

15歳

高校入学

東京都立駒場高等学校・普通科。中学時代からバスケットボールに打ち込み、「女バス」が一番強い高校を希望して進学。

20歳

専門学校卒業・就職

2年間の勉強を終えて、在学中に美容師免許(国家資格)を取得。PEEK-A-BOOに入社し、アシスタントとして原宿店に配属。

現在

今の仕事

スタイリスト、シニアスタイリストを経て、2019年9月にトップスタイリストに昇格。ピーク時は、1日に15人ものお客さまのヘアカットを行う。

18歳

高校卒業・専門学校入学

小さい頃からの「美容師になる!」という夢をかなえるため、高校卒業後、ハリウッド美容専門学校に入学。

25歳

本店に異動

2013年5月、現在の青山店(本店)にアシスタントとして異動。4カ月後にスタイリストデビュー。

仕事のおもしろさ

お客さま、職場の先輩・後輩、家族……
“みんなのハッピー”が私のやりがい

私のやりがいは、仕事を通じて“みんながハッピーになってくれること”です。お客さまならば似合う髪型をご提案してスタイリングし、サロンで心地よい時間を過ごしていただく。するとその方の気持ちがアガりますし、ライフスタイルそのものが素敵に変化することもあります。お客さまがきれいになり、カッコよくなって、毎日楽しく過ごしていただけることが生きがいなんです。また、先輩が心地よく仕事ができるようサポートすること、後輩が早く上達できるようアドバイスすることも大事にしています。そうしてみんなが喜んでくれると、私自身も笑顔でいられて、みんなハッピーに！





Q AND A

Q.美容師を目指したのは?

A. 6歳まで台湾で過ごしました。台湾ではシャンプー・ブローが日本円で200円程度だったので、小さい頃からよく美容院に連れて行ってもらいました。それで日常的に美容師と接するうち、その仕事に憧れて。高校時代、先生は大学進学を勧めてくれましたが、私は早く美容師になりたいくて、早く技術を覚えて上達したかったので、美容専門学校に進学しました。

Q.今でも役に立っている専門学校の授業は?

A. 美容師の技術の基礎は「ワインディング*」に詰まっていると、私は考えます。専門学校時代、それを一生懸命やったことが今も役立っていると思います。例えば、頭の角度を見ながら髪をまっすぐにとかす作業を「シェイプする」と言います。姿勢や目線の保ち方など含めて、就職したての頃は職場でも指導してもらえますが、基本的な動作を学生時代にしっかり身に付けていたので、職場の先輩のアドバイスが頭と体にすっと入ってきました。

*頭髪をブロックに分けて、ロッドを均等に巻き付ける技術。

Q.専門学校時代に頑張ったことは?

A. 私の通った専門学校では、技術を競う各種大会に学校代表として出場する学生をコンテスターと呼んでいました。2年生のときに選ばれて、全国学生ヘア技術コンテストのワインディング部門で、最優秀賞を受賞することができました(全国約300名の出場者の頂点)。実は1年生のときに代表になれず、とても悔しい思いをしました。その悔しさをばねに、毎日10時間以上練習し、念願の全国1位になれたことがよい思い出です。

Q.専門学校時代に「成長できた」と思うことは?

A. 私はすごく負けず嫌いで、何でも1番でない気が済まないタイプ。高校まではライバルなんて必要ない!と思っていたほどでした。でも、同じ目標を持つ専門学校の仲間と出会い、コンテストに出る・賞を取るといった目標に向かって切磋琢磨し合えたことが「財産」になりました。仲間がいるからこそ頑張れるし結果も出せる、上を目指せる、ということに気付きました。



HER TOOLS!

進路選択をする高校生の皆さんへ

好奇心を持ってさまざまな体験をして“好き・得意”を見つけよう

私は専門学校時代、「ワインディング」の練習に時間を費やし過ぎました(笑)。もっとたくさん本を読み、旅行に行き、人と会うといった多くの“体験”にも時間を使い、**表現力を磨いておけばよかった**と思います。ただ私の場合は、好きなこと・得意なことが昔からはっきりしていたし、**好きだからこそ仕事にのめり込めて、たとえつらいことがあるときも頑張ることができる**。大人になったら働く時間が生活のほとんどを占めますから、その時間をつまらなく過ごすより、楽しいと思って過ごす方がハッピーですね。**今のうちに好奇心を持ってさまざまなことを見聞きし、体験し、その中から“好き・得意”を見つけていってください!**



Q.美容師国家資格の取得は大変?

A. “**専門学校の授業をきちんと受けていれば必ず取れる**”と、思います。私の通った専門学校は“**国家資格を取る**”を目標にカリキュラムが組まれていて、実技はもちろん、座学だけでも関係法規や物理化学など10教科はあったと思います。高校の授業と変わりませんね(笑)。でも、**美容のことが好きで、美容師になる目標があるなら、たとえ手先が器用じゃなくても、資格は取れる**と思います。

HER BIBLE...



Q.仕事を始めてから挫折を感じたことはある?

A. もちろんあります。学生時代にもものすごく勉強・練習していたのにうまくできず、「**もっと私はできたはずなのに……**」と、くじけそうになったことも。美容師の仕事は、1年目はまず掃除、そしてシャンプー、ヘッドスパ、カラー、パーマ、接客……と、マルチにこなさなくては行けない。**すべてを完璧に!**と思いがちで、「**できない自分**」という壁にぶつかったこともたびたびです。そんなときに支えてくれたのは**家族や仲間、そして専門学校時代に頑張ったという自信と、「絶対、美容師でやっていく」という熱い思い**でした。

Q.これからの目標は?

A. 私はトップスタイリストになりましたが、ディレクター、アートディレクターというさらに上のランクがあります。それはコンテストの審査や人材育成といった役割もあるポジション。私はこの会社が大好きなので、ずっと働き続け、「**女性初のアートディレクター**」を目指したい。そして美容師の仕事は技術であれ接客であれ、“**一生勉強**”です。お客様をはじめとするみなさんのハッピーのために、**美容師として技術を磨き、お店をもり立てていく存在でありたい**と思います。



no. 3

INTERIOR DESIGN

家具デザイン会社・社長



PROFILE

家具デザイン会社・
MAKE AND SEE 社長

まつお・しんのすけ

松尾 真之介さん (43歳)

松尾さんの専門学校時代

出身校：中央工学校／インテリア工学科(現インテリアデザイン科)／ファニチュアデザイン専攻

学んだこと：家具や雑貨など生活空間のデザイン・製作。基礎製図、基礎(家具)製図、レンダリング、建築法規、美術・デザイン概論、家具制作、インテリア施工・積算、コンピューターグラフィックスなど

松尾さんの社会人生活

今の仕事：家具のデザイン設計／製造を行う会社の社長
仕事の概要：レストラン、ホテルなど、それぞれの場所に合った家具の提案を行う。一つのプロジェクトには、打ち合わせ、プランニング、現場視察、図面製作、進行・予算管理、納品といった業務があり、そのプロジェクト全体のマネジメントも行う。社長としては、社員の採用・育成、資金繰りやITインフラ整備なども大切な仕事

仕事の経験年数：21年

社名の由来：「MAKE AND SEE」は、中国語で「大丈夫! 問題ないよ!」を意味する、「没关系(メイグアンシ)」の読み方を英語で当て字にしたもの。中国でビジネスを行うことも多い松尾さんが楽しみながら考えた社名



私の選択

16歳

高校入学

私立長崎鎮西学院高等学校入学。柔道部所属。

22歳

専門学校卒業・就職

卒業後、家具製造輸入販売・展示会などの内装工事の会社、(株)秀光に入社。配属は営業。

37歳

独立・起業

2013年に、(株)MAKE AND SEEを設立し、独立・起業。

18歳

高校卒業・海上自衛隊入隊

モノづくりを追求するため美大に行くか、柔道が強い大学に行くかと進路に迷っていた。しかし父の経営する会社が倒産し、経済的に困難となり、大学進学を断念。大学に進学するための費用を貯める目的で、海上自衛隊入隊。

27歳

転職

特注家具をやりたくて(株)コンプレックスユニバーサルファニチャーサブライに転職。“社長業のノウハウ”などさまざまな経験を積んだ。営業でありながら、プランニング・コーディネート業務、プロジェクトマネジメント、人材採用、社内システムなど何でも行った。

20歳

専門学校入学

美大進学を考えたが、美大進学にはそのための予備校通学が1年必要。海上自衛隊で過ごした2年を足すと、自分は新卒に比べて就職が3年遅くなってしまふ——そこで、早く技術が身に付き早く卒業できる専門学校を選択し、中央工学校／インテリア工学科(現インテリアデザイン科)に入学。

25歳

転職

オリジナル家具やブランドの企画・開発・販売を行う(株)エーディコア・ディバイズに転職(営業職として)。

現在

今の仕事

社員数は家具設計デザイナーなど約10名。中国、ベトナム、インドネシアなどの海外へ、商談や視察に行く機会も多い。

仕事のおもしろさ

**私たちが提案してできた“空間”や家具が、
たくさんの人に喜んで使ってもらえること**

私は、ホテルやレストラン、ブライダル施設といった商業施設などの家具を提案・デザイン・製作する会社を営んでいます。そうした特注家具と、既製品の両方を扱っていますが、“1社でデザイン・プランニングから製作まで行える会社”は、日本ではほかにほとんどないのが自慢。社員は10名ほどいますが、**彼らと力を合わせてモノづくりの最前線に携われることが私の喜び**ですね。また、依頼してくれたお客さまやインテリアデザイナー、“**私たちが携わった空間（ホテルなど）**”で時間を過ごした方々から、「**雰囲気よくなった!**」「**イメージしていた以上!**」などと言っていただけるのもうれしい。**身近にある家具というモノで、たくさんの人を笑顔にできる素敵な仕事ですよ。**



Q AND A



Q. 専門学校では、
どんな勉強をしたの？

A. 1年のときは基礎製図、基礎造形などのデザインや素材の基礎を学び、2～3年はファニチュアデザイン専攻に進んで家具を設計して作る授業などを受けました。「家具の三面図」を手書きでひたすら何枚も描くという授業もありました。パソコンを使ってデザインする現在でも、初めは手書きでアイデアを形にすることが多いので、その経験が役に立っています。



Q. 学校の授業で
一番大変だったのは？

A. 1年の基礎製図の授業です。木造から鉄筋コンクリート造(RC造)までさまざまな建築物の建築図面を描きますが、最初は描き方がよくわからないままだったので、ちょっと大変でした、1年ではこうした基礎製図や構造計算などを“広く浅く”学びました。2年から自分の興味ある内容(専攻)に集中していけるので、そこからは楽しかったかな。

Q. インテリア工学科(現)を
卒業した人の進路は？

A. 卒業してインテリアデザイナーになる人もいれば、家具設計デザイナーになる人もいます。就職先は、一般企業やアトリエ系設計事務所などさまざま。そうした仕事を何社か経験して、独立・起業する人もいます。また、私のように営業職として採用されて働いている人も半数ほどいるでしょうか。

Q. 専門学校時代に
「成長できた」と思ったことは？

A. 高校との違いでいうと、高校は“自分のための勉強”をするところ。しかし専門学校は“誰かのために、何をするかを勉強”するところだと思います。経済社会、ビジネスに参加していくために必要な知識や技術を学ぶ場ですね。大学と比較すると、専門学校は実務をきっちり学び、大学はより概念的な部分を学ぶという印象を私は持っています。



進路選択をする高校生の皆さんへ

“失敗を事前に完全回避する方法”はない

私は、仕事をするうえでいろんな失敗を経験してきました。何をどれほど学んでも“失敗を事前に完全回避する方法”はありませんから、起きてしまった失敗をどうやって挽回し、相手の信頼を回復するかを一生懸命考えて実行に移すことを大事にしています。おそらくその積み重ねは、自分の糧となっていきます。ですから**高校生の皆さんも、失敗を恐れずに、今のうちにどんどん失敗しておいてほしい**。そうすれば社会に出てから、多少の失敗でもへこたれず、前に進んでいけるのではと思います！



Q. 会社員から社長になる転機は？

A. 小さい頃からの夢は全然ブレていなくて、**専門学校時代には「モノづくりで事業を起こす(会社を営む)」という目標を決めていました**。そのために必要な知識と経験を、いろんな会社にお世話になりながら、着々と蓄えてきたということになります。就職した会社でいろんな仕事を教えてもらい、3つ目の会社で自分の目標に必要なキャリアをすべて身に付け、今なら自分で会社が作れる!と思い、独立起業しました。

Q. 社長もいいけどやっぱりデザイナーがいいなって思わない？

A. 社会に出て仕事をしてみて、「営業が好き・得意」ということに気が付いたんですね。だから今は、「**デザインがわかる、営業兼社長**」をウリにできるわけです。そのおかげでお客さまと同じ言葉・目線でデザインの会話をしながら営業ができる。自分の向き不向き、得意不得意は、**実際に社会に出て仕事をしてみないとわからないこともあります**。社会でいろんな経験をしてこそ、進みたい道を自分で自由に選んでいけると思います。

Q. 今の仕事に興味を持ったのはいつ？

A. モノづくりに興味があったのは、小1のときです。父の経営する会社がモノづくりの得意な会社で、そんな父に憧れたのがきっかけ。家具に興味があったのは、**高校の頃に観た映画の影響**。映画に登場するインテリアや空間構成の美しさに惹かれ、この道に進みました。

Q. 会社を作って成功するために大切なことは？

A. 私は、「**人とのつながり**」と「**自分で情報を探し歩くこと**」を大切にしています。中学・高校時代や専門学校の友人、仕事で知り合った多くの人とのつながりは、新しい仕事をいただく機会となりました。そして仕事では「誰かと同じようなアイデア」にならないよう、インターネットの情報だけに頼らず、国内外のアンティークショップを見て回ったり、美術書を買って集めたりしています。皆さんの進路選択も同様で、**人との交流や、自分で情報を探し歩くことが大事なのではないかと、私は思います**。





専門学校の学びの特徴

一般的な専門学校の特徴を、専門学校の先生方や卒業生の意見を中心にまとめました。目をとおして、学校生活をイメージしてみてください。

01 実践的な実習・演習により、プロフェッショナルとしての知識・技能が身に付く

- 多くの学校では企業などと連携した実習・演習が行われています。また、国家資格などの取得を目的とする学校では、資格取得のカリキュラムに応じた長期の実習・演習が組み込まれていることが多いです。各学校においてインターンシップ、現場体験実習やデュアル教育※1といった実習・演習を通じたカリキュラムによって、プロフェッショナルとしての知識・技能を習得することができます。

※1「デュアル教育」とは、学校における学習と、企業・団体等の現場における実践の二つの連携により学生がより実践的な学びを得ることができる仕組みです。インターンシップとは異なり、教育プログラムとして現場と学校を行き来しつつ、連携して学生を育てます。



例えば、日本児童教育専門学校では、保育士の資格取得において義務付けられている保育実習に加え、学生の保育に対するイメージと実際の保育現場との乖離を防ぐための実習を1年次から実施。仕事内容ややりがいを理解し、資格取得だけでなく、就職までつなげることを目指しています。

02 コンテストへの参加等を通じ、企業などから高い評価を得ている

- 専門学校の在校生は、技能検定の受検や外部のコンテスト・展示会への参加を通じて、自らの知識や技能の修得レベルを確認することができます。中には、社会人とともに技能五輪国際大会※2のような国際大会に出場する在校生がいるなど、高い技能を身に付けている人もいます。
- また、学生時代に高度な資格を取得することについて、企業からの高い評価を得ている学校もあります。



「本校では、就職してから取得すると5～7年程度の経験が必要な資格を在学中に取得させています」

※2 技能五輪国際大会とは、2年に1回開催される国際的な技能競技大会です。日本代表選手の選考は、技能五輪全国大会において行われ、22歳以下である優勝者(成績優秀者)が日本代表として選出されます。



03 同じ職を目指す仲間と出会える

- 専門学校の同級生は、同じ職業を目指す仲間であり、先生方はその道の先輩でもあります。同じ志向の仲間が身近にすることで、好きなことを仕事にするために学び、よりよい進路を選択するための環境が整っています。



「専門学校で、一生付き合っていける仲間と出会えた」「専門学校の先生に紹介してもらった方のもとで、今も働いています」

- また、各学校では研修旅行や成果報告などの行事も工夫され、卒業後も記憶に残る経験となっているようです。



04 きめ細かな教育・支援の体制がある

- ・ 専門学校は、生活面、学習面の指導がきめ細かく、高校までと同様に学級制や担任制をとる学校も多いです。



「先生と生徒の距離が近く、相談に乗ってくれた」

- ・ 各学校では、資格の取得や知識・技能の習得に向けて、授業ごとの小テストや放課後の補習などを工夫し、学修成果を担保しています。例えば、東京工科自動車大学校・東京テクニカルカレッジでは、授業ごとに授業シートを生徒に配布し、わかる授業を実現しています。

授業シート

この科目で学ぶ内容

今日の授業で学ぶ内容を10項目に細分化

使用する教材(オリジナルサブテキストなど)

授業に対する先生からのメッセージ

授業カルテ

授業シートの10項目に沿った内容

その場ですぐに答え合わせ

解答・解説も配布

(出典)東京工科自動車大学校・東京テクニカルカレッジホームページ

05 自立した社会人になるための基礎を習得できる

- ・ 専門学校卒業後の就職を見据えて、基本的な生活習慣に関する指導、学習習慣の習得に向けた指導が充実しています。例えば、あいさつや遅刻・欠席時の指導の徹底などを通じて、社会人としての基礎を確実に身に付けることができます。



「専門学校に入って好きなことを勉強するために、学習習慣が身に付いた。このことが、就職後のスキルアップにも役立っています」



専門学校はどうやって選べばいいの？

目指す職業のために専門学校に行こう!と決めたときに、気になるのは学校選びです。たくさんある専門学校の中からどの学校を選べばよいのでしょうか？

まずは自分で学校を調べてみましょう。

インターネット上や紙での冊子など、専門学校に関する情報はたくさんあります。「自分で調べて学校を探す」という作業に必ず取り組んでください。調べたうえで、家族や友人、学校の先生などの相談しやすい人に相談してみるのもよいと思います。文字や写真の情報だけでは不十分なので、オープンキャンパスにもぜひ参加しましょう。現在専門学校で学んでいる先輩の生の声が聞けます。

学校を選ぶ際には、就職実績や資格取得状況、授業内容などの情報を見る方が多いかと思います。その他に現場体験の場である実習の内容や学校に設置されている設備や機械の紹介から学びの環境を知ることもできます。また、進学や生活に関する支援として、学費について独自の支援制度を設けているところがあります。日々の学校生活、学びの内容、将来の就職先などさまざまな視点から自分で情報を入手して進学先を検討してください。

学校を自分で調べて考える作業は、自分の未来を考える作業です。楽しい専門学校生活と輝くプロフェッショナルのキャリアがあなたを待っています。



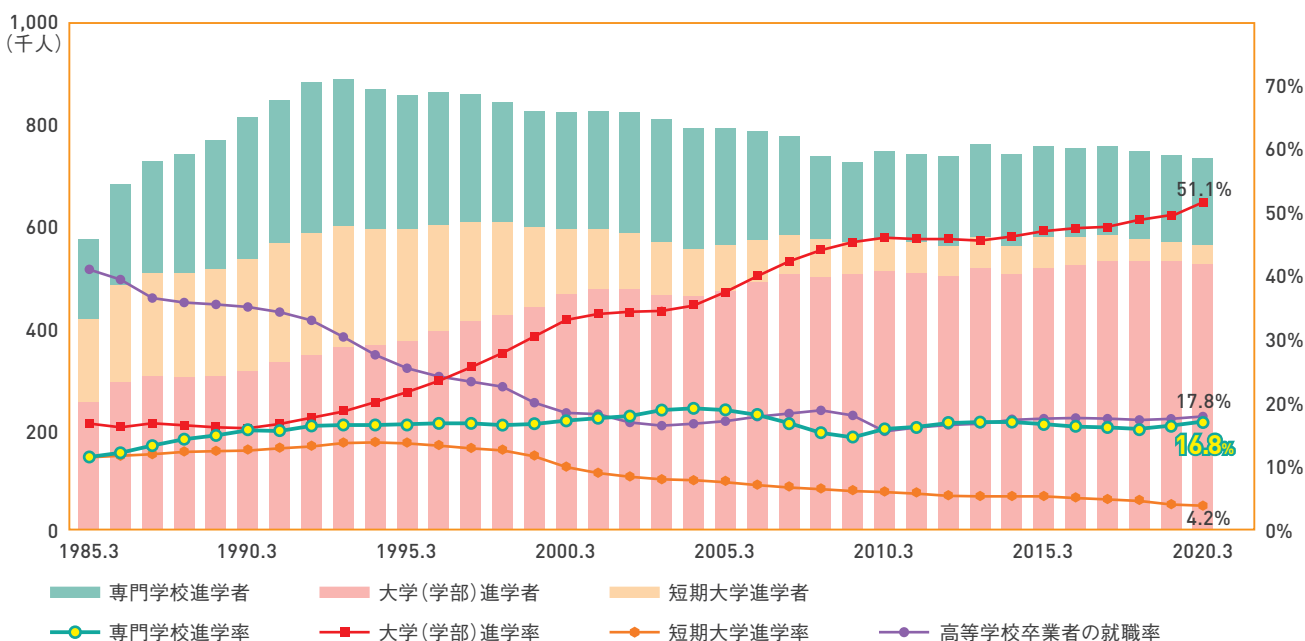
データで見る 専門学校

01 データで見る「専門学校の現状」

専門学校への進学率

高等学校卒業後の進学先として、専門学校は大学に次ぐ学生数を受け入れています。新規高等学校卒業者の専門学校への進学率は、2010年度以降横ばいに推移しており、2018年度は15.9%でした。長年にわたり、新規高等学校卒業者の15%超が専門学校に進学しています。

進学状況 ① 高等学校卒業者の進学率の推移 (現役進学率)

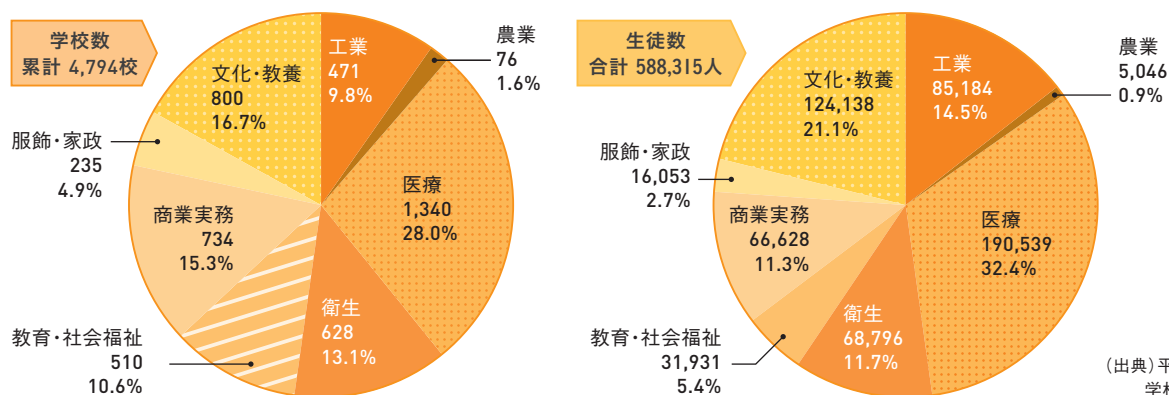


(出典) 学校基本調査(各年度)

幅広い学習分野

専門学校で学べる内容は、8分野に分かれており、学校数や生徒数がそれぞれ異なります。

専門学校の分野別学校数・生徒数の構成比(2018年度)

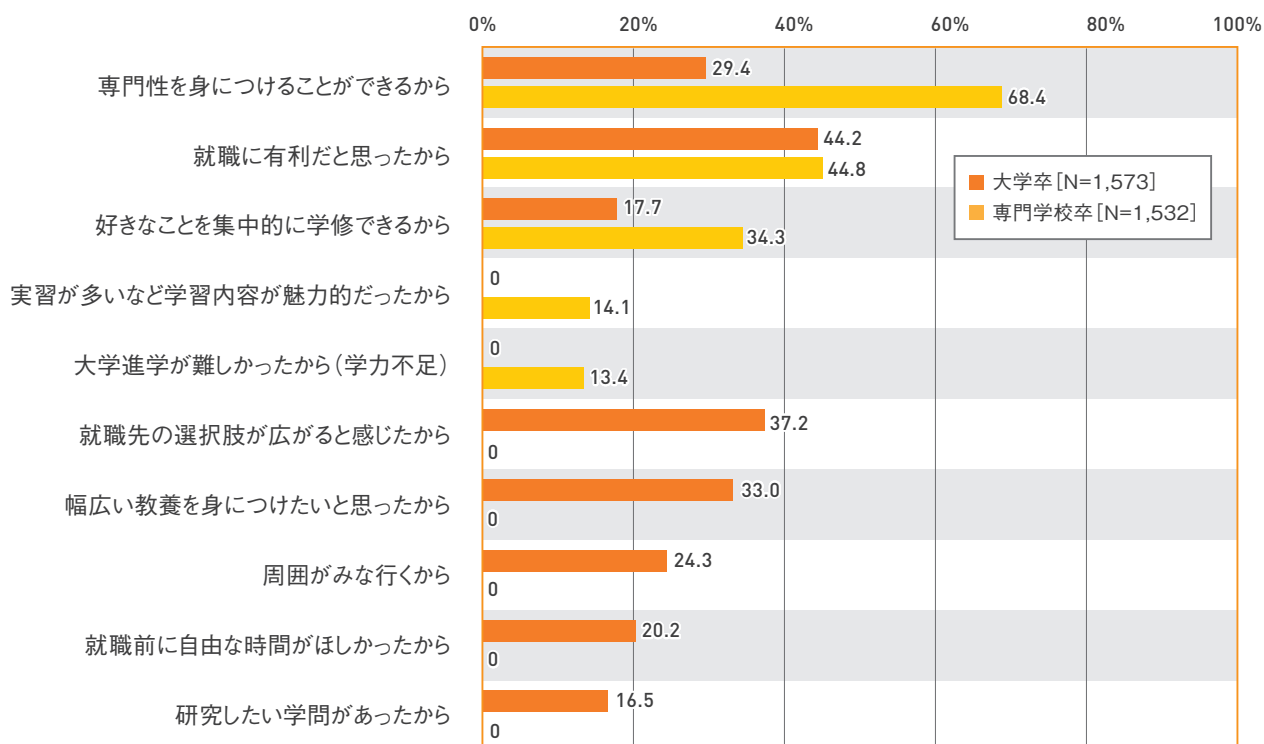


(出典) 平成30年度 学校基本調査

02 データで見る「専門学校の魅力」

専門学校を進路として選択する理由

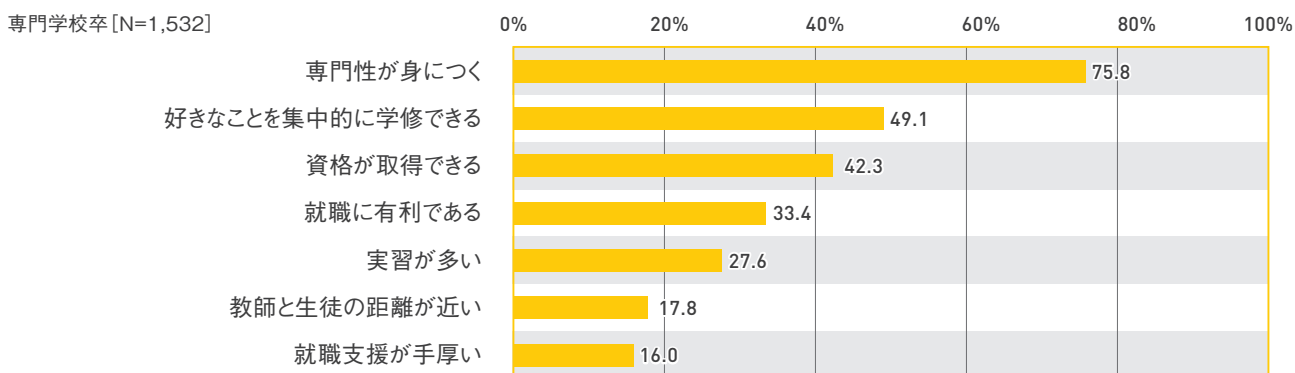
高校時点での進路決定理由を見ると、専門学校進学者は、「専門性を身につけることができるから」「好きなことを集中的に学修できるから」「就職に有利だと思ったから」などの選択割合が大学進学者よりも高くなっています。



(出典) 平成29年度「社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進」卒業生調査

卒業生から見た専門学校の魅力

専門学校卒業生から見た専門学校の魅力として、「専門性が身につく」「好きなことを集中的に学修できる」「資格が取得できる」が挙げられています。自身の関心に応じて、専門性の高いことを学べることが評価されています。



(出典) 平成29年度「社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進」卒業生調査

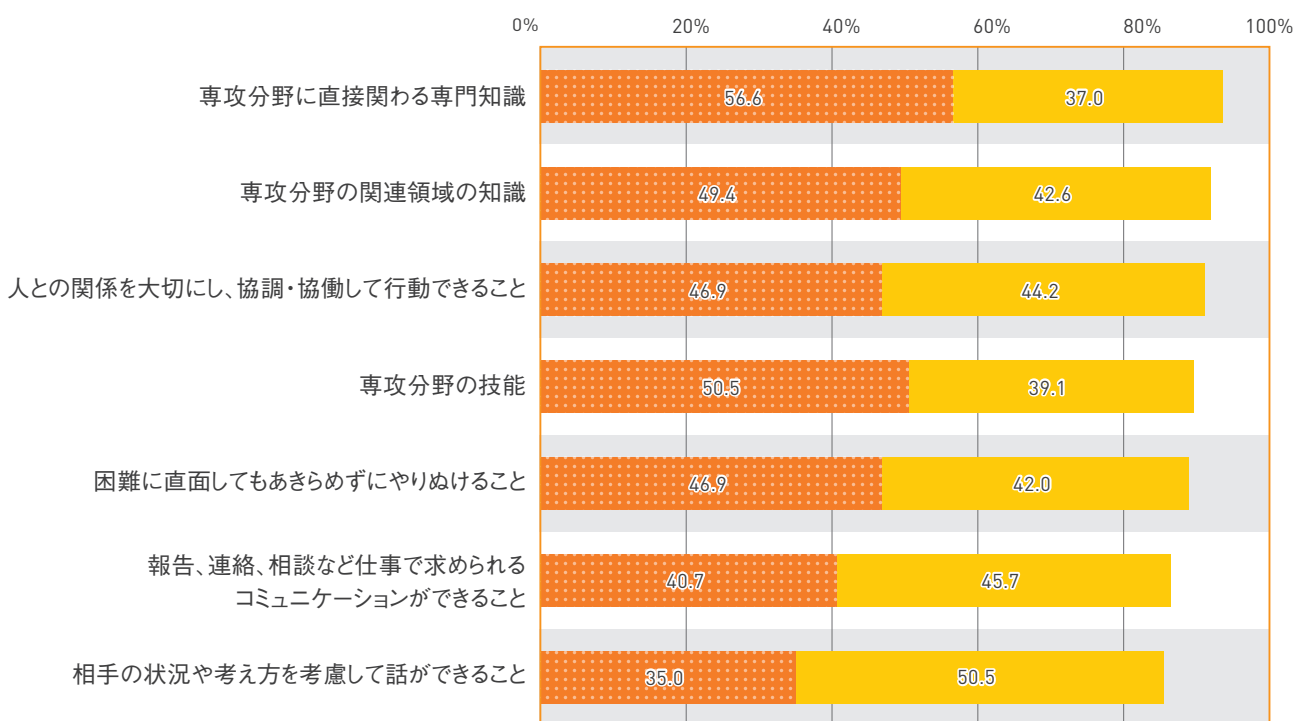
03 データで見る「専門学校」の成果

(1) 専門学校での学修成果

専門学校の教育で成長するスキル・能力

専攻分野に関わる知識・技能を習得できることが専門学校の魅力の一つですが、実際に、専門学校在学中に「専攻分野に直接関わる専門知識」「専攻分野の関連領域の知識」について一定の成長を感じている卒業生は9割を超えています。また、それ以外にも、「人との関係を大切に、協調・協働して行動できること」「困難に直面してもあきらめずにやりぬけること」「仕事で求められるコミュニケーションができること」などの能力も伸ばすことができていることがわかります。

[N=2,020] ■ とても伸びた ■ やや伸びた

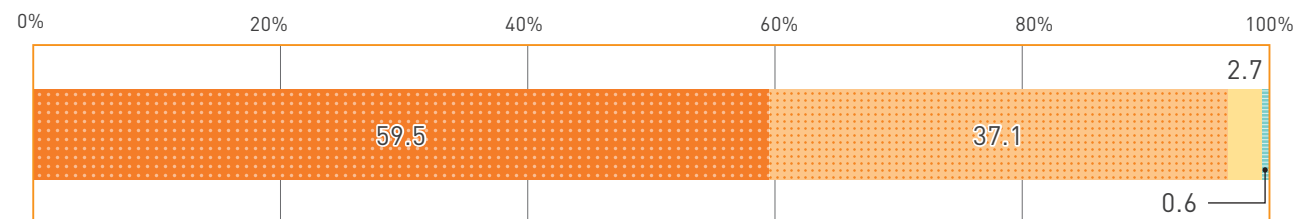


(出典) 平成29年度「職業実践専門課程」の実態等に関する調査研究 卒業生調査

専門学校卒業生の専門学校の教育に対する満足度

専門学校卒業生の9割以上が、専門学校の教育に対して「とても満足している」または「やや満足している」と回答しており、専門学校を卒業したほとんどの生徒が、専門学校の教育に対して満足しています。

[N=2,019] ■ とても満足している ■ やや満足している ■ あまり満足していない ■ ほとんど満足していない



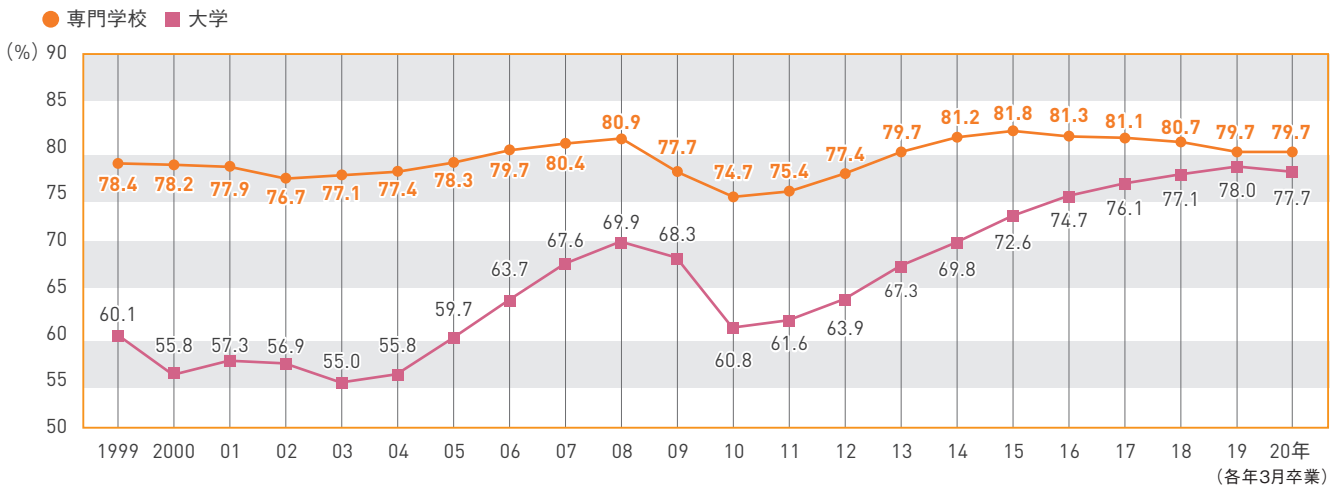
(出典) 平成29年度「職業実践専門課程」の実態等に関する調査研究 卒業生調査

(2) 専門学校からの就職

卒業生に占める就職者の割合の推移

1982年以降、専門学校卒業生の就職率は常に大学卒業生よりも高く、2020年度の就職率は79.7%でした。また、大学卒業生と比較して社会全体の景気や産業界の動向の影響を受けにくく、専門学校卒業生の就職率は比較的緩やかに推移しています。

高等教育機関卒業生の就職率の推移(全就職者/全卒業者)



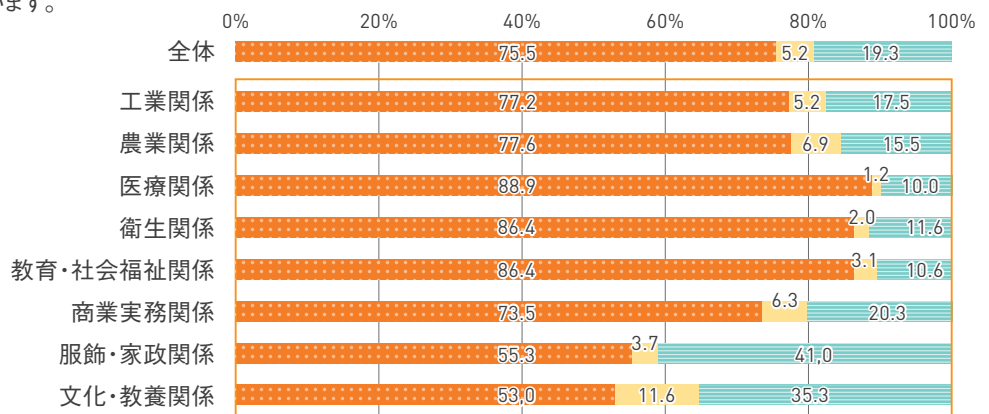
(出典) 学校基本調査(各年度)

専門学校卒業生の進路希望との合致度

専門学校の卒業生は、専門学校での学びと直結する仕事に就く率が高く、2017年度の卒業生は全体で75.5%が専門分野に関連した仕事に就職しています。特に、医療(88.9%)、衛生(86.4%)、教育・社会福祉(86.4%)の3分野で8割を超え、最も低い文化・教養(53.0%)でも半数を超えています。

専門学校卒業生の就職率 (分野別/2017年度間)

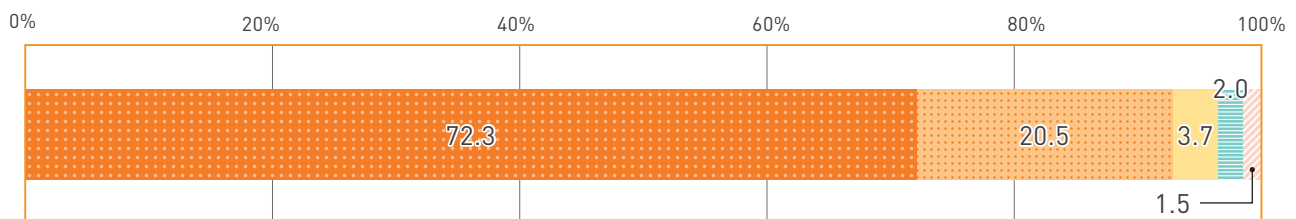
- 専門分野に関連した仕事に就職
- それ以外の仕事に就職
- 就職以外



(出典) 平成30年度 学校基本調査

また、専門学校卒業生の7割以上が「希望と合致している」進路に就職しており、高い割合で希望通りの就職先に就職できていることがわかります。

- [N=2,020]
- 希望と合致している
 - やや希望と合致している
 - あまり希望とは合致していない
 - 希望とは合致していない
 - 明確な進路希望がなかった(ので、わからない)



(出典) 平成29年度「『職業実践専門課程』の実態等に関する調査研究」卒業生調査

